

第2回岡山市場未来会議（令和6年度）  
議事要旨

日時：令和7年1月24日（金）13:30～15:25

場所：岡山市勤労者福祉センター 4階 大会議室

出席者：

【委員】

学識経験者	3名
卸売業者	5名
仲卸業者	4名
場内関係者	1名
出荷団体	1名
小売事業者	1名
金融事業者	1名
消費者	2名
岡山市	1名

【オブザーバー】

農林水産省中国四国農政局	1名
--------------	----

【事務局】

岡山市 市場事業部  
三菱 UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

議事要旨：「将来構想中間まとめ」・「岡山市場を取り巻く物流環境」について

■ 市場の果たす役割について

- 発言者 A 足元では、物価高や異常気象など、産地から販売先まで状況が大きく変化している。今後は産地でかかる経費をいかに下げていくか、そのための役割を市場が果たしていくことが重要ではないか。
- 発言者 B 従前、市場が担ってきた機能だけではなく、新たな機能を盛り込んだ、地域の特性を生かした市場作りが重要ではないか。ただし、市場が新たな役割を担うようになったとしても、公共の福祉の観点から、開設者は引き続き地方公共団体である岡山市が担い続けるべきである。自治体のトップが変わることで事業が頓挫することの無いよう、責任感を持ってリーダーシップを発揮してほしい。
- 発言者 C 現在の岡山市場は物流環境の変化もあり、「陸の孤島」化しつつある。遠方からの荷物が見込めなくなっている中で、地元の産地を見つめなおす必要があるのではないかと。市場から集荷に出たり、運賃のサポートをしたりするなど、地元から市場に荷物が集まるような環境を整備する必要があるのではないかと。
- 発言者 D 市場がどこまで頑張っても、生産量の減少等、様々な外部因子によって出荷される荷物が増えないという状況もありうる。こうした外部因子についても整理し、議論の俎上に載せる方がよい。
- 発言者 E 現在、仲卸業者は場内で販売しかできないが、消費者の需要の変化に対して柔軟な発想を持って商売をし、新たな価値を生み出せるよう、環境を整備していく必要があるのではないかと。
- 発言者 D 消費者の動向、産地の動向、量販の動向など、周辺の変化についても情報収集・分析できないかと。
- 発言者 F 生産者の減少や異常気象、コスト高などにより、今後も取扱数量の減少は続いていくと予想される。出荷団体と卸売市場が連携して、マーケットインの考え方を進めていきたい。
- 発言者 G 京都市場の見学のルートを実際に見学し、普段口にする食べ物がどのようなルートを辿ってきているのか、誰でも見に行けるとすることは消費者にとって重要であると感じた。また、地産地消、地場産品を守るという意識が表れていると感じた。岡山の地場産品をブランド化し、その魅力を消費者に届けられると良い。
- 発言者 F 出荷団体としては、荷下ろしに手間がかからないこと、品質管理が高い水準で行われること、販売力強化によって少し高く値が付くことなどにより、出荷しやすい市場を実現していただきたい。

■ 市場の設備について

- 発言者 H 老朽化し使い勝手の悪い現在の市場を改善していくことは喫緊の課題ではないか。これからの市場のあり方を考えれば、現在の市場の設備の悪さは新たな価値を生み出すうえで障壁となっていると感じる。
- 発言者 D 使い勝手が良い、悪いという意見が両方あるようである。何が使いやすく何が使いづらいのか、丁寧に整理する必要があるかもしれない。

■ 労働環境について

- 発言者 H 若手が希望を持ってないという状況は大いに反省し、若い人が働きやすい環境を作っていかなければならない。

## ■ 市場内の体制について

発言者 B 第3回の分科会で、卸売業者の販売額のうち、仲卸業者が購入している割合の低さが議題となった。買参者が多く、仲卸業者のウェイトが軽いことには問題意識があり、仲卸業者を経由した販路をしっかりと確立するためにも、買参者の再編や統廃合など、考えられる術はあるのではないかと。

発言者 D 京都市場では、京の食文化を守るというコンセプトを大上段に掲げており、そのコンセプトを守るためには、目利き力や買い支えといった役割を果たすためにも仲卸業者の存在は絶対に必要であるという議論が再整備前からあった。市場内の体制の再編を考えることも重要であるが、どこに課題があり、その解決のためにどのような手段が有効なのかを分析すべきである。現実には様々な経営課題を抱えている仲卸業者も多いと予想されるが、そうした方々が経営相談をできるような機会や、事業承継について学べる研修の実施などは有効ではないかと。

## ■ 再整備のコストについて

発言者 B 前回の未来会議の中でも建築コストの高騰の話題が出ていたが、再整備にあたってどこまで価格を抑制し、場内事業者の負担を最小限に抑えられるかが一つの重要なポイントではないかと。開設者と場内事業者の役割分担等について、コンセンサスを得ることが重要である。

## ■ 卸売市場の再整備の潮流について

発言者 D 他市場の事例を見ると、事業が止まってしまうリスクとしては、自治体のトップが変わる政治的なリスクのみならず、事業費の大幅な増加といった財政的なリスクもある。

## ■ 物流環境について

発言者 I 現状の県内の流通が視覚的に分かるものがあるかといえるのではないかと。水産に限らず、県内の流通とそのボリューム感が分かると今後の検討に役立つのではないかと。

## ■ まちづくりの視点について

発言者 J 将来の需要予測の結果はとても厳しい状況で、将来の市場の施設規模はコンパクト化を検討せざるを得ないのではないかと。市場のある岡南エリアは都市計画的にもポテンシャルのある土地であると認識しており、コンパクト化に伴う余剰地をどのように活用していくか、まちづくりの視点も今後必要になるのではないかと。

## ■ 今後の検討の方向性について

発言者 D 岡山市場の再整備については、市の政策とも関わるものであるため、未来会議で議決を取って何らかの方向性を固めるというのではないかと理解している。

発言者 K 「再整備」について、市場を「活性化」させるための手段の1つとして捉えている。ハード面・ソフト面の両面に分けて、短期・中期・長期という時間軸に沿って対応課題を整理すると分かりやすいのではないかと。

発言者 L 老朽化の進む岡山市場の再整備を今後15年、20年待つのは現実的ではないと感じている。一方で、日々の業務の中で改善を進めていく必要があるものも多々ある。先を見通して検討すべき課題と、足元で改善すべき課題については切り分けて議論が必要ではないかと。

発言者 M 全体の取扱数量は大きく下がっているものの、状況は場内事業者それぞれの立場によって様々であると思われる。施設が新しくなったから、場所が変わったから、で状況が一気に好転するわけではないため、そ

それぞれの置かれた状況について冷静に整理したうえで、結論ありきではなく、最も効果的な方法について検討していくべきである。

発言者D 岡山市場の全体コンセプトについて、「市場規模のコンパクト化と独自性・らしさの追求によって、持続的な市場経営を実現する」とあり、様々記載されているが、やや業界用語的な表現が多く、一般市民に伝わりづらいのではないかと感じている。市民の方にも伝わりやすい表現に工夫できるとよい。また、現在のコンセプトでは岡山の独自性を感じづらいため、より岡山独自の状況を踏まえた、岡山らしいコンセプトとしてまとめていただきたい。

以上